

取組7 地域・学校の連携・協働による子どもを支える体制の構築

取組8 多様で変化する社会に適応し、活躍できる力の育成

地域と学校の連携・協働の推進

確かな学力の育成

新たな時代を「生きる力」の育成

【背景①】

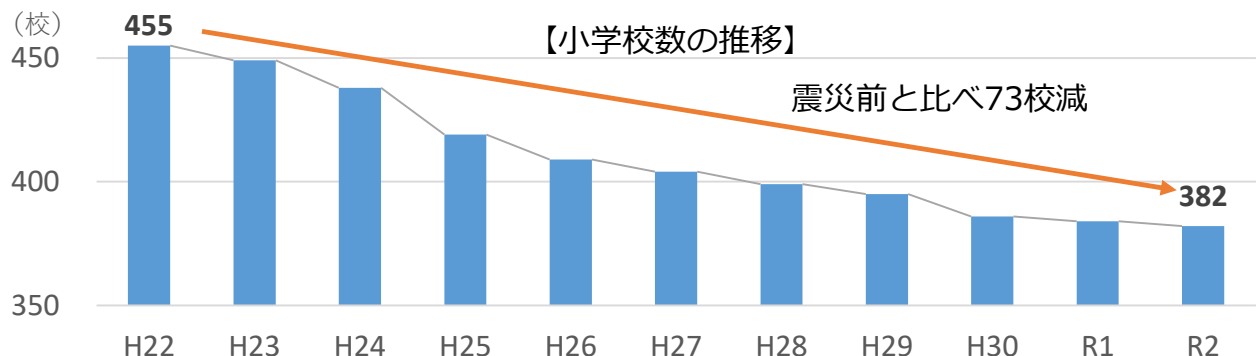
- ・人口減少に伴い、児童生徒数や学校数が減少し、地域のつながりも希薄化

【背景①】

- ・複雑で予測困難な時代においては、一人一人の主体的な学びを引き出し、他者と協働しながら多様な個性を最大限に生かす教育が必要



G Suite for Educationの活用による実践研究



【対応①】

■ 個別最適な学びの推進

- ・子供たち一人一人の能力や特性に応じた「個別最適な学び」と社会とつながる「協働的な学び」の実現に向け、大学等と連携した実践的な研究を実施

【背景②】

- ・幼児教育の無償化等に伴う幼児教育の質の向上への関心・期待の高まり

【対応②】

■ 幼児教育センター機能の整備

- ・教育庁内に幼児教育センター機能を整備し、公私や施設類型（幼稚園・保育所・認定こども園）の区別のない研修・研究・支援を推進する予定



公私・施設類型の区別のない幼児教育の質の向上

【対応①-1】

■ 志教育の一層の推進

- ・本県教育の柱として推進してきた志教育10年間の成果を踏まえ、地域や地元企業等との教育活動を強化



地域学習

- ・地域行事・防災活動への参加や起業体験等により学校と地域との関係を深化

【対応①-2】

■ コミュニティ・スクールの導入促進

コミュニティ・スクール

保護者や地域住民等を委員とした学校運営協議会を設置し、地域の声を学校運営に生かす制度

- ◇合議体として学校と地域が対等な立場で協議
- ◇地域住民等が当事者として学校運営に参加

地域と学校がビジョンを共有し、持続的な連携・協働体制を構築

「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校づくり」へ

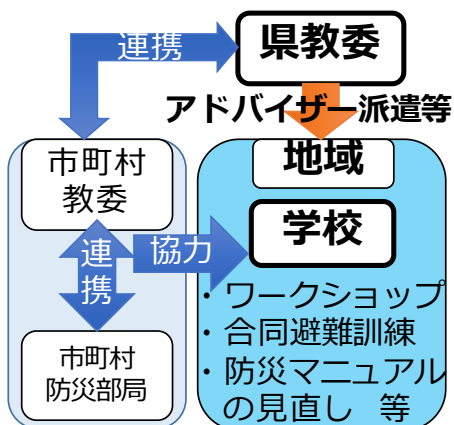
【背景②】

- ・震災から10年を迎え、これまでの取組の検証や「学校防災体制在り方検討会議」での意見も踏まえ、地域ぐるみの学校防災体制の更なる強化が必要

【対応②】

■ 地域と連携した学校防災体制の構築

- ・各学校で地域と連携したワークショップや避難訓練等の取組を実施
- ・県は相談窓口の設置や大学等と連携したアドバイザー派遣等により支援



児童生徒の命を守る新たな学校防災体制の構築

【背景③】

- ・グローバル化・ICT化の急速な進展 ※後者の対応は議題（2）に掲載

【対応③】

■ 仙台二華高校における国際バカロレアの導入

- ・高度な教育プログラムにより国際社会をリードする人材を育成
- ・令和3年4月よりプログラム開始予定

東北地方の公立高校初の導入

■ ICTを活用した英語教育の導入

- ・海外ネイティブ講師や高校生とのオンライン交流により、実際に英語を話す機会を創出



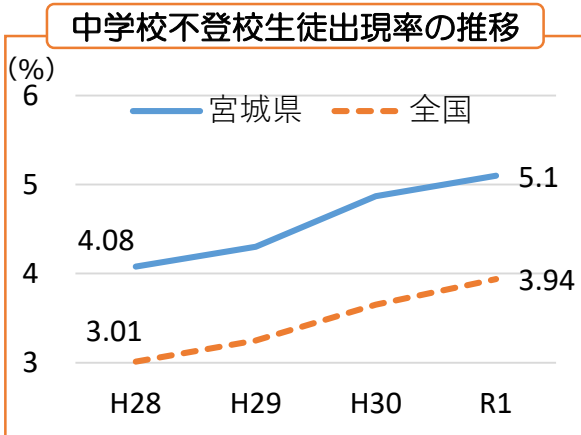
みやぎから国際社会をリードする人材の育成

取組9 安心して学び続けることができる教育体制の整備

不登校児童生徒への支援体制の構築

【背景①】

- ・不登校児童生徒出現率は高水準かつ増加傾向



【背景②】

- ・教育機会確保法の施行により、学校復帰のみを目指すのではなく、社会的な自立を目指す方針に転換

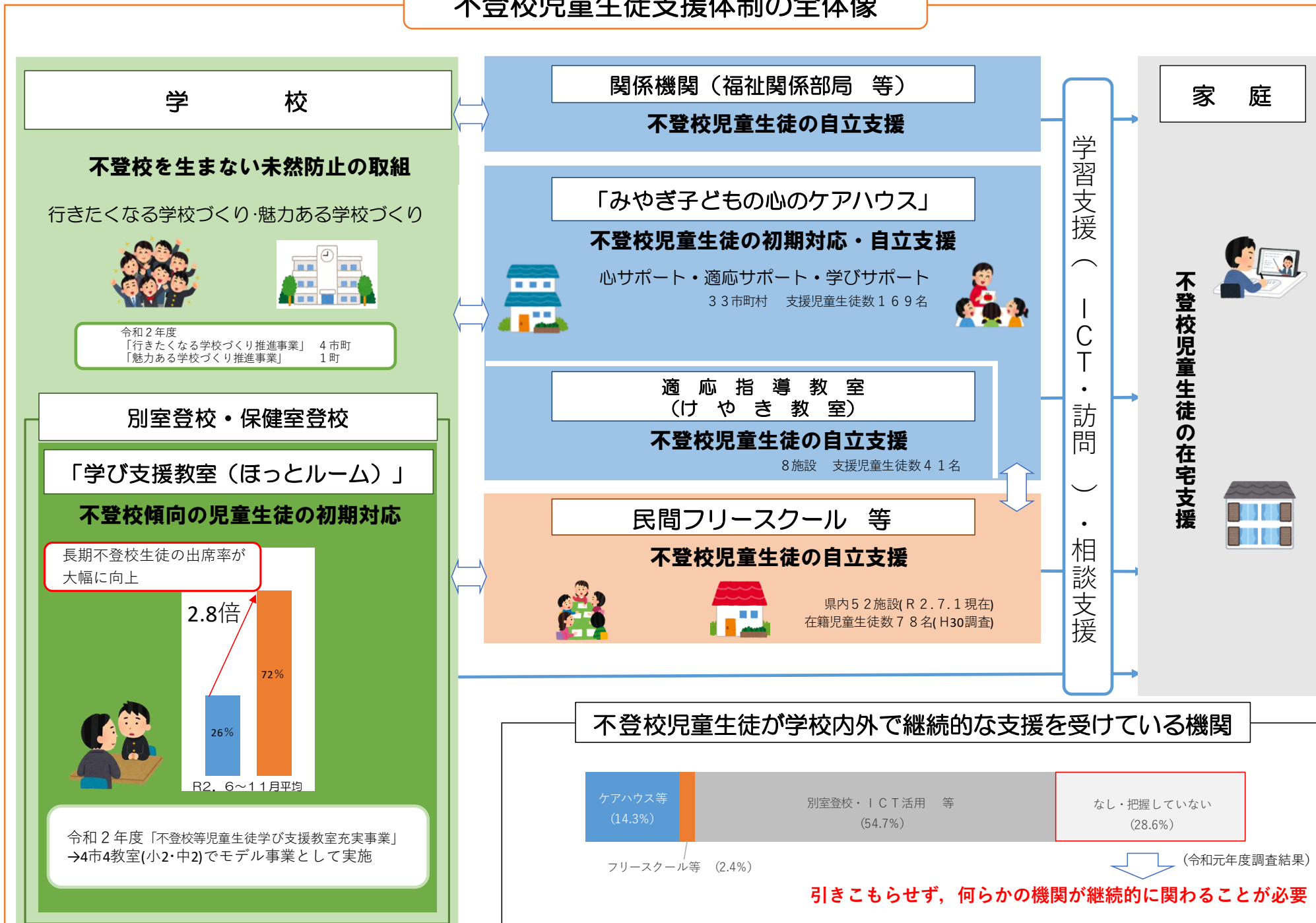


【対応】

■ 学校内外の総合的な支援体制の構築

- ・学校における未然防止の取組により、子供たちが安心して過ごすことのできる環境を構築
- ・校内の居場所づくりとして、「学び支援教室（ほっとルーム）」の設置により、休みがちな児童生徒を含めた学習支援や社会的自立に向けた支援体制を充実
- ・フリースクール等の民間施設との連携を含め、関係機関等による総合的な支援体制を構築

不登校児童生徒支援体制の全体像



子供たちがどこにいても、誰かとつながっている体制の実現